

IR資料

-2023年3月期 第3四半期-

2023年02月08日
ニプロ株式会社



目次

事業の概況	2
2022 年度 3Q 業績	3
2022 年度 通期予想の変更（全体）	4
販売費および一般管理費	5
為替影響を除いた損益比較	6
事業セグメント別 売上高・営業利益	7
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	8
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	9
セグメント業績 - ②医薬関連事業	10
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	11
セグメント別・製品群別の売上高	12
セグメント別・地域別の売上高	13
製品分類表	14
製商品別売上高	15、16
為替感応度	17
設備投資額・減価償却費	18

事業の概況

製造・購買・物流

今年度の工場稼働停止およびダイアライザライン(中国合肥、インド)の新設予定は下記。現在、国内外の工場は通常稼働。

2022												2023		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
		中国上海 ロックダウンの影響 3/13~3/15 稼働停止 3/16~3/20 10%以下に出勤率制限	中国上海 4/1~5/31 完全稼働停止		中国上海 6/1より 順次稼働再開	中国合肥 7/15 ダイアライザ3ライン目 新規稼働					インド 11/22 ダイアライザ3ライン目 新規稼働		インド 2/1 ダイアライザ4ライン目 新規稼働	

販売

- 透析用医療機器 : ダイアライザは中国、北米、日本で堅調、欧州は軟調に推移、透析センターは中南米にて拡大
- 循環器用医療機器 : 中国でスコアリングバルーンとYコネクター、日本では薬剤溶出バルーンとスコアリングバルーンの販売が好調
- 外科用医療機器 : 人工肺やHeartMate 3が堅調に推移
- 自社医薬品 : 経口剤は12月上市品のネキシウムAG販売が好調、注射剤は薬価UPと販売数量増加で大きく伸張、外用剤は低調も自社医薬品全体としては販売が増加
- 受託医薬品 : 海外はJMIファーマの販売が堅調に推移するも、その他導出品の販売が減少し、前年対比で減少
日本は顧客の在庫調整や販売中止に伴う受注減により、前年対比で減少
- ファーマパッケージング : 中国ではワクチン向けバイアル、生地管が需要減少で軟調に推移するも、米国、フランスで生地管、欧州ではアンプル、バイアルの販売が堅調

臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

CDP気候変動レポートにて「B」評価獲得

国際的な環境調査・情報開示を行う非政府組織であるCDPIによる「気候変動レポート」に回答し、今年度「B」評価を獲得した。評価は「A」から「D-」までの8段階で、「B」評価は上から3番目となる。今回はニプログループの気候変動への取り組みが評価されたが、今後とも環境問題に対する取組を深めるとともに、ホームページ等の媒体を通じて積極的に情報開示を行うなど、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献していく。



2022年度3Q 業績

	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額 (増減率)	通期予想 5月時点 (達成率)	通期予想 11月時点 (達成率)	通期予想 2月時点 (達成率)	四半期別業績推移				
							2021年度		2022年度		
							3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	3,693.5	4,063.0	+369.4 +10.0%	5,400.0 75.2%	5,518.0 73.6%	5,490.0 74.0%	1,272.3	1,254.3	1,278.9	1,324.4	1,459.6
売上原価	2,570.3	2,843.5	+273.1 +10.6%	3,707.0 76.7%	3,842.0 74.0%	3,820.0 74.4%	886.2	884.8	886.8	927.9	1,028.7
売上総利益 (※1)	1,123.2 30.4%	1,219.4 30.0%	+96.2 +8.6%	1,693.0 72.0%	1,676.0 72.8%	1,670.0 73.0%	386.1 30.3%	369.4 29.5%	392.0 30.7%	396.5 29.9%	430.8 29.5%
販売管理費	925.8 25.1%	1,087.6 26.8%	+161.8 +17.5%	1,418.0 76.7%	1,499.0 72.6%	1,480.0 73.5%	317.4 24.9%	328.0 26.2%	362.5 28.3%	362.3 27.4%	362.7 24.9%
営業利益	197.3 5.3%	131.7 3.2%	△65.5 △33.2%	275.0 47.9%	177.0 74.4%	190.0 69.3%	68.7 5.4%	41.4 3.3%	29.5 2.3%	34.1 2.6%	68.0 4.7%
経常利益 (※2)	205.5 5.6%	137.7 3.4%	△67.8 △33.0%	266.0 51.8%	266.0 51.8%	184.0 74.8%	81.1 6.4%	70.3 5.6%	73.3 5.7%	42.6 3.2%	21.6 1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	110.3 3.0%	69.6 1.7%	△40.7 △36.9%	156.0 44.6%	156.0 44.6%	100.0 69.6%	37.3 2.9%	24.1 1.9%	52.7 4.1%	9.7 0.7%	7.0 0.5%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	132.3	86.6	△45.7 △34.5%	185.0 46.8%	185.0 46.8%	129.0 67.1%					

(※1) 売上総利益への未実現利益の影響額
 2021年度3Q △12.9億円 2021年度3Q +22.2億円
 2022年度3Q △14.8億円 2022年度3Q +30.7億円

(※2) 為替損益

- 売上高 医療機器、国内医薬、ファーマパッケージングは売上増加。医薬品受託は売上減少。国内外において製造原価と物流費高騰によるコスト増を製品へ価格転嫁したことと海外売上高が円安の効果で対前年増収。
- 売上総利益 インフレと為替による原材料費・エネルギー費の高騰が影響し、売上総利益率は微減。
- 営業利益 海外運送費は12月から減少傾向も年初からのコスト増が大きく影響し、営業利益は対前年で減少。
- 経常利益 為替差益が対前年8.4億円の拡大にとどまり、経常利益は対前年で減少。
- 当期純利益 不動産売却による特別利益を計上するも、当期純利益は対前年で減少。

2022年度 通期予想の変更（全体）

単位:億円	2021年度 実績	2022年度 通期予想 (5月時点)	2022年度 通期予想 (11月時点)	2022年度 通期予想 (2月時点)	通期予想増減 (対11月時点)
売上高	4,947.8	5,400.0	5,518.0	5,490.0	△ 28.0
売上原価	3,455.1	3,707.0	3,842.0	3,820.0	△ 22.0
売上総利益	1,492.6	1,693.0	1,676.0	1,670.0	△ 6.0
	30.2%	31.4%	30.4%	30.4%	+0.0%
販売管理費	1,253.8	1,418.0	1,499.0	1,480.0	△ 19.0
	25.3%	26.3%	27.2%	27.0%	△0.2%
営業利益	238.8	275.0	177.0	190.0	13.0
	4.8%	5.1%	3.2%	3.5%	+0.3%
経常利益	275.8	266.0	266.0	184.0	△ 82.0
	5.6%	4.9%	4.8%	3.4%	△1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	134.5	156.0	156.0	100.0	△ 56.0
	2.7%	2.9%	2.8%	1.8%	△1.0%

- 売上高 米ドルの為替レートが円高方向に転じたことにより想定レートを135円/ドルから132円/ドルに変更。通期の売上高は11月予想に対し下方修正。
- 売上総利益 同じく為替レートの影響により売上原価も抑えられる見込みであることから、売上総利益率は11月予想から据置。
- 営業利益 為替レートの影響に加え、運送費が12月以降減少傾向に転じたことから販管費が抑えられ、営業利益は上方修正。
- 経常利益 11月予想時点から為替差益が大きく縮小する見込みであることから経常利益を下方修正。
- 当期純利益 経常利益の下方修正に伴い、当期純利益も11月予想から大きく下方修正。

販売費および一般管理費

【販売費および一般管理費】

	2021年度	2022年度3Q		増減	増減率	通期予想 (5月時点)	通期予想 (11月時点)	通期予想 (2月時点)
	3Q	実績	構成比					
人件費	310.3	321.1	29.5%	+10.8	+3.5%	442.5	462.1	440.3
研究開発費(※1)	136.5	157.5	14.5%	+21.0	+15.4%	197.5	200.0	200.0
運送費	92.8	167.4	15.4%	+74.6	+80.4%	215.0	227.2	220.5
償却費(※2)	83.6	86.5	8.0%	+2.9	+3.5%	108.0	109.0	121.3
販促費(※3)	60.1	75.4	6.9%	+15.3	+25.5%	92.0	100.5	102.0
旅費交通費	23.3	33.6	3.1%	+10.3	+44.2%	34.0	36.6	44.8
保管料	22.6	26.5	2.4%	+3.9	+17.3%	27.0	32.1	34.0
その他	196.3	219.3	20.2%	+23.0	+11.7%	302.0	331.5	317.1
合計	925.8	1,087.6	100.0%	+161.8	+17.5%	1,418.0	1,499.0	1,480.0

(※1) 研究開発費・試験研究費・開発償却費

(※2) 減価償却費・のれん償却費

(※3) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

●販売費および一般管理費

海外運送費は12月から減少傾向も年初からの累積増が影響しており、対前年で大きく増加。
新型コロナウイルス感染症の影響緩和により営業活動が活発化し、旅費交通費・販促費が対前年で増加。
上記の運送費減少傾向に加え為替レートが円高に推移した影響により、通期予想を下方修正。

●研究開発費

医療 透析情報管理システムの開発プロジェクトに加え、薬剤溶出ステントの治験に関する費用を計上し対前年で増加。
薬剤溶出ステントははじめ複数治験が前倒しで進んだことにより通期予想を上方修正。

医薬 経口剤開発関連の費用が減少するも、開発用原薬の購入費用に加え各種治験の費用により対前年で増加。
一部開発プロジェクトの開始が来期にずれ込んだことで通期予想を下方修正。

P P 研究開発に係る人件費が想定以上でしたことにより対前年で増加かつ通期予想を上方修正。

【研究開発費(内訳)】

	2021年度	2022年度	通期予想	通期予想	通期予想
	3Q	3Q	(5月時点)	(11月時点)	(2月時点)
医療	62.1	68.4	87.5	91.5	86.0
医薬	71.9	86.4	108.0	105.0	108.5
ファーマ パッケージング	2.5	2.8	3.5	3.5	5.5
合計	136.5	157.5	199.0	200.0	200.0

為替影響を除いた損益比較

	2021年度 3Q [a]	2022年度 3Q [b]	為替の影響 (※) [c]	影響を除いた 2022年度 [d=b-c]	増減率 [d÷a]
売上高	3,693.5	4,063.0	+209.0	3,854.0	+4.3%
売上原価	2,570.3	2,843.5	+121.6	2,721.9	+5.9%
売上総利益 (%)	1,123.2 30.4%	1,219.4 30.0%	+87.4	1,132.0 29.4%	+0.8%
販管費	925.8	1,087.6	+52.2	1,035.4	+11.8%
営業利益 (%)	197.3 5.3%	131.7 3.2%	+35.2	96.5 2.5%	△51.1%
営業外収益	56.9	64.7	+8.4	56.3	△1.1%
営業外費用	48.7	58.7		58.7	
経常利益	205.5	137.7	+43.6	94.1	△54.2%
特別利益	5.5	40.8		40.8	
特別損失	20.1	31.2		31.2	
税引前利益	190.9	147.2	+43.6	103.6	△45.7%
法人税等	69.0	66.5	+19.7	46.8	△32.2%
非支配株主に 帰属する純利益	11.5	11.0		11.0	
当期利益	110.3	69.6	+23.9	45.7	△58.6%

※ 昨年レートとの差額で外貨取引合計を円換算
円貨取引における為替の影響は考慮していません

期中平均レート	2021年 1~9月	2022年 1~9月	期末レート	2020年 12月	2021年 3月	2021年 9月	2021年 12月	2022年 3月	2022年 9月	2022年 12月
1 USD	109.11	129.46	1 USD	103.50	110.71	111.92	115.02	122.39	144.81	132.70
1 EUR	130.27	136.62	1 EUR	126.95	128.48	129.86	130.51	136.70	142.32	141.47
1 中国元	16.86	19.46	1 中国元	15.88	16.45	17.30	18.06	19.26	20.37	19.01

事業セグメント別 売上高・営業利益

売上高

		【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
単位：億円						
医療関連事業	2022年度3Q	+342.0	+12.2%	4,095.0	4,229.6	4,206.0
	2021年度3Q					
医薬関連事業	2022年度3Q	△7.9	△1.5%	790.0	762.6	762.0
	2021年度3Q					
ファーマパッケージング事業	2022年度3Q	+34.5	+10.0%	512.0	521.9	515.0
	2021年度3Q					

営業利益

		【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
単位：億円						
医療関連事業	2022年度3Q	△2.0	△0.7%	407.0	406.3	412.0
	2021年度3Q					
医薬関連事業	2022年度3Q	△39.1	△63.9%	99.0	26.0	29.0
	2021年度3Q					
ファーマパッケージング事業	2022年度3Q	+0.1	+0.5%	33.0	28.0	28.0
	2021年度3Q					

●医療関連事業

売上は伸長するも、原材料費と電力料、海外における運送費高騰に加え、販売手数料と旅費交通費が売上の増加率以上に増加したことにより、2.0億円の営業減益。

●医薬関連事業

売上減少に加え、原材料費と電力料・水道光熱費の高騰により、39.1億円の営業減益。

●ファーマパッケージング事業

売上は伸長するも、原材料費と電力料の高騰により、営業利益は0.1億円の微増。



セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

		【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
		単位：億円				
国内事業	2022年度3Q	1,642.9				
	2021年度3Q	1,534.6	+108.3	+7.1%	2,220.0	2,179.1
医療機器	2022年度3Q	902.9				
	2021年度3Q	860.9	+42.0	+4.9%	1,258.5	1,200.2
医薬品	2022年度3Q	739.9				
	2021年度3Q	673.7	+66.2	+9.8%	961.5	978.9
ダイアライザ 国内売上高	2022年度3Q	174.7				
	2021年度3Q	170.5	+4.2	+2.5%	229.6	227.3

- **医療機器** ダイアライザは、販売が堅調に推移し、前年対比で4.1億円増加。
透析機器と透析関連の消耗品は、販売が堅調に推移し、前年対比で8.5億円増加。
注射針類は、厚労省向けのワクチン接種用シリンジの販売が増加し、前年対比で4.0億円増加。
カテーテル類は、コロナ影響に左右されつつも、手術件数が戻りつつあるため、主力製品の薬剤溶出バルーンや新製品のNSE-PTCAバルーンカテーテルの販売が増加し、前年対比で26.2億円増加。
- **国内医薬** 経口剤の既存品は、販売数量が増加したものの、薬価減少分をカバーできず、販売減。一方で12月上市品であるネキシウムAGの販売好調により、経口剤トータルでは前年対比で18.8億円増加。
注射剤は抗生物質製剤や輸液製剤において、不採算再算定品目の薬価が上がったことに加え、販売数量が増加したことにより、前年対比で45.1億円増加。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
国際事業	2022年度3Q	1,463.2	+226.6	+18.3%	1,828.0	2,003.5	1,989.0
	2021年度3Q	1,236.6					
B2B(他社ブランド)	2022年度3Q	202.1	+17.2	+9.3%	229.9	227.6	222.5
	2021年度3Q	184.9					
ニプロブランド	2022年度3Q	1,261.0	+209.3	+19.9%	1,598.0	1,775.9	1,766.5
	2021年度3Q	1,051.7					
アメリカ	2022年度3Q	575.3	+117.0	+25.5%	694.1	796.8	773.1
	2021年度3Q	458.3					
ヨーロッパ	2022年度3Q	264.2	△1.9	△0.7%	359.8	402.5	411.4
	2021年度3Q	266.1					
アジア	2022年度3Q	227.4	+48.1	+26.8%	289.4	314.5	310.0
	2021年度3Q	179.3					
中国	2022年度3Q	194.1	+46.2	+31.2%	254.6	262.0	272.0
	2021年度3Q	147.9					
ダイアライザ 海外 売上高	2022年度3Q	466.3	+62.4	+15.4%	594.7	652.7	657.3
	2021年度3Q	403.9					

- **B2B** インスリン用針は販売が減少するも、翼状針・採血針は堅調に推移し、B2B全体で前年対比7.3億円増加。
- **ニプロブランド** 円安進行の影響で、売上高は全体的に増加傾向。
 ダイアライザの数量は、北米と中国で好調に推移。欧州はロシア-ウクライナ問題の影響で数量は引き続き軟調に推移するも、為替影響により販売額は増加。中国除くアジアでは概ね堅調に推移。国際事業全体で前年対比71.8億円増加。
 透析装置は中南米にて好調のため、米州全体で前年対比5.7億円増加。
 インドにて好調のため、アジア全体で前年対比13.5億円増加。
 欧州では供給体制の回復に伴い販売増加傾向ではあるが、前年対比では10.9億円減少。
 その他透析関連については、特に米州で透析センターの開設が進み、関連製品含め堅調に推移。

セグメント業績 - ② 医薬関連事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
医薬関連事業	2022年度3Q	535.5	△7.9	△1.5%	790.0	762.6	762.0
	2021年度3Q	543.5					
＜ 受託売上高内訳 ＞							
ジェネリック品	2022年度3Q	291.6	△6.9	△2.3%	400.6	409.2	409.2
	2021年度3Q	298.5					
先発品 長期収載品	2022年度3Q	167.3	△14.8	△8.1%	289.8	253.0	253.0
	2021年度3Q	182.1					
OTC 原薬他	2022年度3Q	33.9	+5.4	+18.9%	46.7	43.2	43.2
	2021年度3Q	28.5					
JMIファーマ	2022年度3Q	42.4	+8.0	+23.3%	52.9	57.2	56.6
	2021年度3Q	34.4					

- **ジェネリック品** 経口剤は前年に鏡石工場被災などの影響により減少していたが、今年は回復し、前年対比で3.5億円増加。注射剤は顧客の在庫調整に伴う受注減により、前年対比で10.3億円減少。
- **先発/長期収載品** 経口剤は前年に鏡石工場被災などの影響により減少していたが、今年は回復し、前年対比で7.5億円増加。販売終了品目の受注減により、前年対比で19.9億円減少。
- **OTC/原薬他** バリデーションや設備の一時金収入の増加により、前年対比で5.4億円増加。
- **JMIファーマ** 営業人員の増員、販売促進費の増額により顧客開拓し、前年対比で8.0億円増加。

セグメント業績 - ③ ファーマパッケージング事業

		単位：億円	【増減額】	【増減率】	【通期予想】 (5月時点)	【通期予想】 (11月時点)	【通期予想】 (2月時点)
ファーマパッケージング事業	2022年度3Q	379.9	+34.5	+10.0%	512.0	521.9	515.0
	2021年度3Q	345.3					
< 地域別売上高内訳 >							
日本	2022年度3Q	87.3	+0.7	+0.8%	111.0	115.9	116.5
	2021年度3Q	86.6					
海外	2022年度3Q	292.5	+33.8	+13.1%	401.0	406.1	398.5
	2021年度3Q	258.7					
ヨーロッパ	2022年度3Q	154.5	+29.7	+23.8%	195.5	215.1	208.2
	2021年度3Q	124.8					
アメリカ	2022年度3Q	87.8	+16.2	+22.6%	105.0	128.7	123.0
	2021年度3Q	71.6					
中国	2022年度3Q	37.8	△15.3	△28.8%	87.0	44.3	51.3
	2021年度3Q	53.1					
インド	2022年度3Q	12.3	+3.3	+36.7%	13.5	18.0	16.0
	2021年度3Q	9.0					

● **日本** 新型コロナウイルスの影響を受け、検査用スポンジスワブの販売が増加し、検査製品全体で前年対比2.0億円増加。

● **海外** 欧州は生地管がフランスの窯の操業度回復により、前年対比5.8億円増加。
 アンプルはクロアチアの販売が堅調に推移し、前年対比で9.7億円増加。
 バイアルについても堅調に推移し、前年対比5.0億円増加。

アメリカでは生地管が生産能力の向上と円安進行により、前年対比9.5億円増加。

中国ではワクチン向けバイアル需要の減少により前年対比で15.8億円減少。
 それに伴い、生地管の販売も軟調に推移し、前年対比1億円減少。

セグメント別・製品群別の売上高

製品	セグメント	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパケ ージング事業	その他 事業	合計
	単位：億円					
医療機器	2022年度3Q	2,325.4	0.0	25.3	0.0	2,350.7
	2021年度3Q	2,068.0	0.0	23.0	0.0	2,091.1
医薬品	2022年度3Q	816.2	535.5	3.0	0.0	1,354.8
	2021年度3Q	731.6	543.5	3.2	0.0	1,278.3
ファーマ パッケージング	2022年度3Q	0.2	0.0	350.0	0.0	350.3
	2021年度3Q	0.2	0.0	318.4	0.0	318.6
その他	2022年度3Q	0.2	0.0	1.4	5.3	7.0
	2021年度3Q	0.3	0.0	0.6	4.4	5.4
合計	2022年度3Q	3,142.2	535.5	379.9	5.3	4,063.0
	2021年度3Q	2,800.2	543.5	345.3	4.4	3,693.5

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

セグメント別・地域別の売上高

セグメント		医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパッケー ジング事業	その他 事業	合計
地域	単位：億円					
日本	2022年度3Q	1,597.0	490.5	87.8	5.2	2,180.8
	2021年度3Q	1,508.4	505.1	86.9	4.2	2,104.7
海外計	2022年度3Q	1,545.1	44.9	292.0	0.0	1,882.1
	2021年度3Q	1,291.8	38.3	258.4	0.2	1,588.8
アメリカ	2022年度3Q	640.2	0.0	86.0	0.0	726.2
	2021年度3Q	508.1	0.2	68.5	0.0	576.9
ヨーロッパ	2022年度3Q	349.9	0.9	151.3	0.0	502.2
	2021年度3Q	326.7	2.2	123.3	0.2	452.5
中国	2022年度3Q	244.7	0.1	36.7	0.0	281.5
	2021年度3Q	189.9	0.1	52.0	0.0	242.2
その他アジア	2022年度3Q	310.2	43.9	17.9	0.0	372.0
	2021年度3Q	266.9	35.7	14.4	0.0	317.1
合計	2022年度3Q	3,142.2	535.5	379.9	5.3	4,063.0
	2021年度3Q	2,800.2	543.5	345.3	4.4	3,693.5

●地域別 2022年度3Qの地域別売上高比率は国内53.7%、海外46.3%であり、いずれの地域も販売は堅調。

●セグメント別 医療関連事業は、国内・海外共にダイアライザや透析関連製品、注射剤・輸液、注射針類、バスキュラー関連製品の販売が堅調。

医薬関連事業は、海外はJMIファーマの販売が堅調に推移するも、その他導出品の販売が減少し、前年対比で減少。日本は顧客の在庫調整や販売中止に伴う受注減により、前年対比で減少。

ファーマパッケージング事業は、中国ではワクチン向けバイアル、生地管の需要が減少するも、アメリカでは生地管、欧州では生地管、アンプル、バイアルの販売が堅調。



製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFコードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVコードル（翼付留置針）、セーフタッチコードル 他
バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカメラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺、整形外科製品
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュウ、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

製商品別売上高（1）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率
【医療機器】	ダイアライザ	574.5	641.1	+66.5	+11.6%	403.9	466.3	+62.3	+15.4%	170.5	174.7	+4.1	+2.5%
	透析機器	151.0	166.1	+15.0	+10.0%	95.3	105.7	+10.4	+10.9%	55.6	60.3	+4.6	+8.4%
	その他透析関連	260.4	341.4	+81.0	+31.1%	200.6	277.8	+77.1	+38.4%	59.7	63.6	+3.8	+6.5%
	透析関連製品計	986.0	1,148.7	+162.6	+16.5%	700.0	849.9	+149.9	+21.4%	286.0	298.7	+12.7	+4.4%
	注射針類	310.4	368.4	+57.9	+18.7%	192.5	246.4	+53.9	+28.0%	117.9	121.9	+4.0	+3.4%
	バスキュラー関連製品	234.4	260.7	+26.2	+11.2%	34.7	52.3	+17.5	+50.5%	199.6	208.3	+8.6	+4.4%
	輸液関連製品	126.4	136.3	+9.9	+7.9%	41.0	50.1	+9.0	+22.1%	85.3	86.2	+0.8	+1.0%
	検査製品	83.0	90.2	+7.1	+8.6%	57.3	63.7	+6.3	+11.1%	25.7	26.5	+0.7	+3.1%
	糖尿病関連製品	66.3	65.2	△1.0	△1.6%	55.1	55.7	+0.5	+1.1%	11.1	9.4	△1.6	△14.9%
	SD関連製品（※1）	44.0	51.0	+7.0	+16.1%	5.7	10.7	+5.0	+87.3%	38.2	40.3	+2.0	+5.4%
	その他	238.3	227.1	△11.1	△4.7%	146.6	139.0	△7.6	△5.2%	91.6	88.1	△3.5	△3.8%
部門計	2,089.2	2,348.0	+258.8	+12.4%	1,233.4	1,468.2	+234.8	+19.0%	855.7	879.7	+23.9	+2.8%	
【医薬品(自社)】	経口剤	300.9	320.0	+19.0	+6.3%	0.2	0.3	+0.1	+39.6%	300.7	319.6	+18.8	+6.3%
	注射剤・輸液	309.0	372.4	+63.3	+20.5%	55.5	73.8	+18.2	+32.9%	253.5	298.6	+45.1	+17.8%
	外用剤・貼付剤	51.6	50.0	△1.5	△3.0%	-	-	-	-	51.6	50.0	△1.5	△3.0%
	その他・体外診断薬等	69.9	73.7	+3.8	+5.5%	2.3	2.2	△0.1	△5.0%	67.5	71.4	+3.9	+5.8%
	部門計	731.6	816.2	+84.6	+11.6%	58.1	76.4	+18.2	+31.4%	673.4	739.8	+66.4	+9.9%
【医薬品(受託)】	経口剤	219.5	230.3	+10.7	+4.9%	0.6	0.3	△0.2	△42.5%	218.9	229.9	+11.0	+5.1%
	注射剤・輸液	234.1	203.3	△30.7	△13.2%	1.8	1.2	△0.6	△33.8%	232.3	202.1	△30.1	△13.0%
	外用剤・貼付剤	41.5	37.4	△4.0	△9.8%	0.5	0.3	△0.1	△33.1%	40.9	37.0	△3.8	△9.4%
	その他・体外診断薬等	16.9	24.8	+7.8	+46.3%	0.8	0.4	△0.3	△41.1%	16.1	24.3	+8.2	+50.9%
	部門計	512.2	496.0	△16.1	△3.2%	3.9	2.4	△1.4	△36.7%	508.3	493.6	△14.7	△2.9%
【医薬品(JMIP)】	経口剤	34.0	42.1	+8.0	+23.7%	34.0	42.1	+8.0	+23.7%	-	-	-	-
	注射剤・輸液	0.3	0.3	0.0	△7.4%	0.3	0.3	0.0	△7.4%	-	-	-	-
	部門計	34.4	42.4	+8.0	+23.4%	34.4	42.4	+8.0	+23.4%	-	-	-	-

（※1）今年度より【医療機器】のうち、「その他」に分類されていた整形外科製品を「SD関連製品」に再分類しています。

製商品別売上高（2）

事業分類	単位：億円	全社				海外				日本			
		2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率	2021年度 3Q	2022年度 3Q	増減額	増減率
【ファーマ	生地管関連	70.0	87.0	+17.0	+24.4%	53.9	70.7	+16.7	+31.1%	16.0	16.3	+0.3	+2.0%
パッケージング]	アンプル硝子	36.0	48.8	+12.8	+35.7%	35.9	48.7	+12.8	+35.7%	0.0	0.1	0.0	+20.3%
	バイアル硝子	124.7	122.1	△2.5	△2.0%	111.5	109.1	△2.4	△2.2%	13.1	13.0	0.0	△0.5%
	シリンジ硝子	39.2	45.7	+6.4	+16.5%	39.0	45.4	+6.4	+16.4%	0.2	0.3	0.0	+38.4%
	ゴム栓・栓体類	13.9	13.8	△0.1	△1.0%	4.6	4.5	0.0	△1.3%	9.3	9.2	0.0	△0.8%
	プラスチック容器	15.3	13.9	△1.4	△9.2%	0.0	0.0	0.0	△98.1%	15.3	13.9	△1.3	△8.8%
	魔法瓶	3.0	2.9	0.0	△2.0%	-	-	-	-	3.0	2.9	0.0	△2.0%
	その他	16.2	15.6	△0.6	△4.0%	13.1	13.2	0.0	+0.5%	3.0	2.3	△0.7	△23.5%
	部 門 計	318.6	350.3	+31.6	+9.9%	258.3	291.8	+33.4	+13.0%	60.2	58.4	△1.8	△3.0%
【再生医療】	再生医療等製品	1.9	2.7	+0.8	+45.0%	-	-	-	-	1.9	2.7	+0.8	+45.0%
【その他】	生産機械販売・不動産賃貸	5.4	7.0	+1.6	+29.7%	0.4	0.6	+0.1	+31.6%	4.9	6.4	+1.4	+29.6%
	連結合計	3,693.5	4,063.0	+369.4	+10.0%	1,588.8	1,882.1	+293.3	+18.5%	2,104.7	2,180.8	+76.0	+3.6%

為替感応度

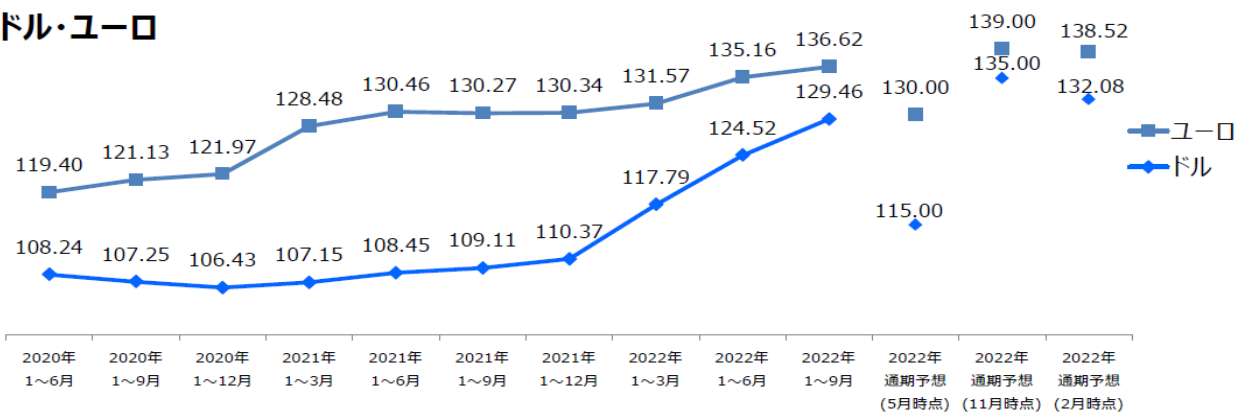
【1円変動による年間影響額】

(億円)

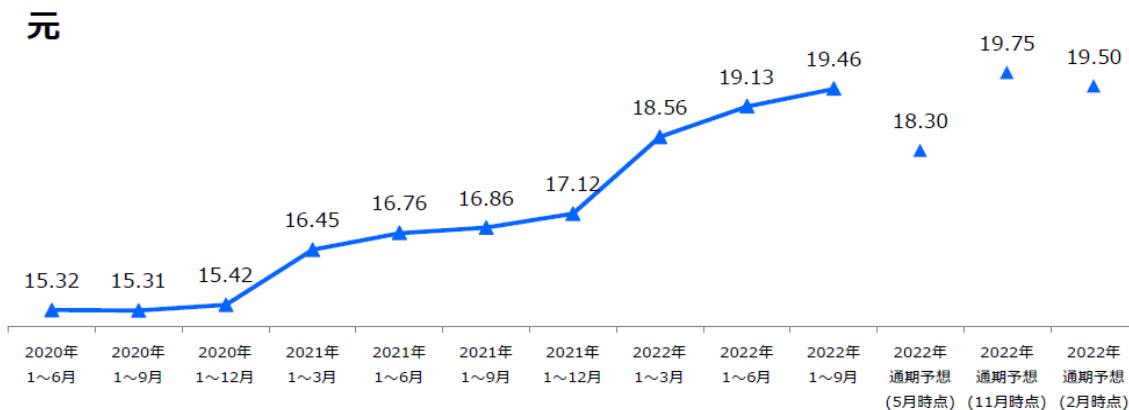
	ドル	ユーロ	元
売上高	6.0	3.0	13.4
営業利益	0.3	1.7	10.8

【期中平均レート】

ドル・ユーロ



元



設備投資額・減価償却費

	設備投資額				減価償却費				
	2021年度 3Q	2022年度 3Q	通期予想 5月時点 (進捗率)	通期予想 11・2月時点 (進捗率)	2021年度 3Q	2022年度 3Q	通期予想 5月時点 (進捗率)	通期予想 11時点 (進捗率)	通期予想 2月時点 (進捗率)
単位：億円									
医療関連	118.6	341.7	311.7 109.6%	430.0 79.5%	145.6	161.5	192.0 84.1%	204.5 79.0%	216.5 74.6%
医薬関連	168.7	157.6	182.5 86.4%	187.5 84.1%	94.4	98.0	141.0 69.5%	133.0 73.7%	133.0 73.7%
ファーマパッケージング	29.2	107.3	123.0 87.2%	179.0 59.9%	36.2	37.8	52.5 72.0%	53.0 71.3%	53.0 71.3%
その他	24.3	21.2	15.0 141.3%	121.0 17.5%	35.5	35.4	36.5 97.0%	62.0 57.1%	50.0 70.8%
合計	341.0	628.0	632.2 99.3%	917.5 68.4%	311.8	332.9	422.0 78.9%	452.5 73.6%	452.5 73.6%

(※) 今年度より、設備投資額の表示形式を検収ベースから計上ベースに変更しております。

● 設備投資額

医療はダイアライザの大館第7工場建築に関する設備費用を計上したことで、対前年で大きく増加。

医薬はニプロファーマ近江工場新設に関する設備費用を計上するも、前年はニプロファーマ伊勢工場の新棟建築により設備費用が膨らんでいたことから対前年では減少。

ファーマパッケージングはアメリカのタンク拡張工事費用の計上に加え、フランスのガラス窯の修繕と新設費用、ドイツのガラスシリンジ洗浄ラインの新設費用等を計上したことにより対前年で大きく増加。

3Qにおける通期予想見直しによる設備投資額の修正はなし。

● 減価償却費

各セグメント共に大きな工期遅延等も無く設備が稼働開始しており、減価償却費は予算並みで推移。

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

